

症状強ければ受診検討を

【17】

医療センターの

教えて、

先生!



Q 今のところ大きなことはなっていないませんが、錯覚や物忘れが多くなり悩んでいます。

(会津若松市 女性 74歳 T

・Sさん)

A 単なる物忘れだけでなく錯覚との組合せの症状があると、レビー小体型認知症の疑いがあります。この場合、ハンガーに掛けてある洋服が人に見えた

錯覚や物忘れが多くて悩む

り、レースカーテンの模様が入りに見えたりします。このように、実際にあるものが別なものに見えることを「錯覚」と言います。一方で、何もないところに見える「幻視」というものもあります。例えば、シーツの上にも虫が見える、といった場合です。

しかし、大抵の場合、自分では錯覚や幻視だと気がまかせん。ほかに、はっきりとした寝言や寝ぼけが多くなるのもこの病気の特徴です。レビー小体型認知症の場合は、ごく早期の段階から画像診断で見つける検査方法があります。

また、置いたつもりでも置いていなかった、というように思い違いも、錯覚と呼ぶことがあります。この場合は、物忘れによって覚えていなかったり、似たような記憶と混同したり、時間的順序を取り違えたりするところが原因となっており、記憶力低下の症状の一つです。ほかに、注意力の低下も錯覚を引き起こしますが、その場合は、疲れや体調不良、睡眠不足なども原因となります。

もし症状が強くなるようであれば心身医療科を受診することをお考えください。

(精神医学講座教授 川勝忍)
【毎月第2日曜日、福島医大会

津医療センターの協力で掲載します】